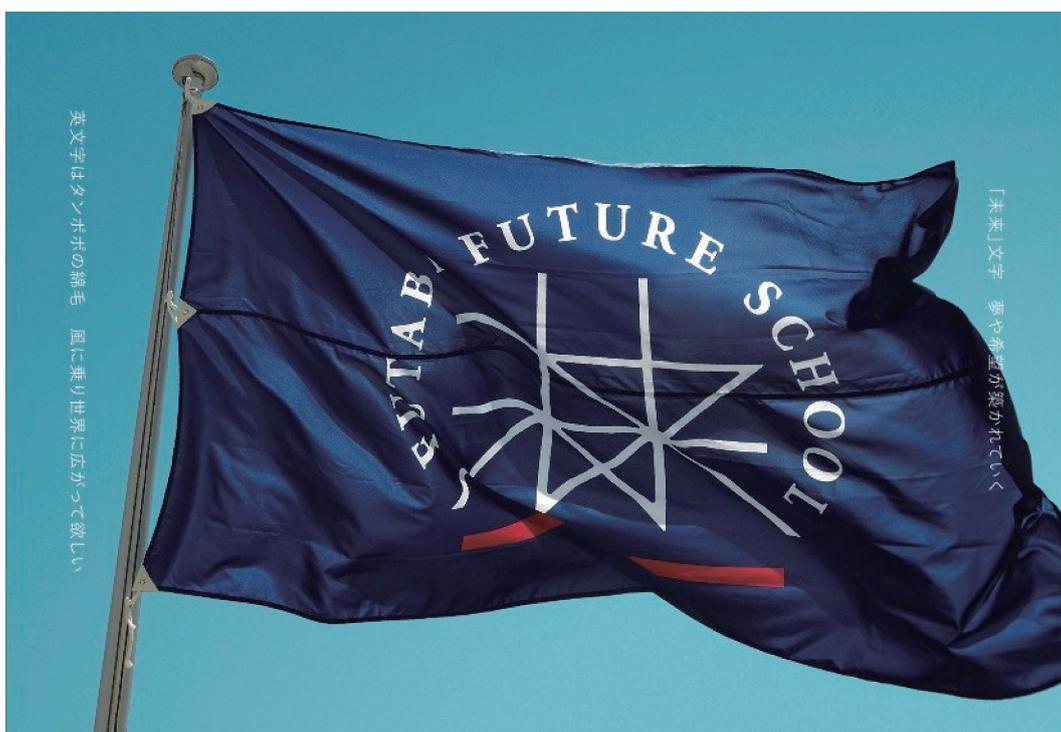




令和5年度指定  
WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）  
コンソーシアム構築支援事業

研究開発実施報告書  
第1年次



福島県立

ふたば未来学園中学校・高等学校

# 【資料1】教育課程表

学校番号 (67)

## 令和5年度教育課程単位計画表

福島県立ふたば未来学園高等学校 (本校舎)

〈普通教科・科目〉

全日制の課程 総合学科

教科	科目	令和5年度			令和4年度			令和3年度			備考
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
国語	国語総合							4			
	国語表現									3	
	現代文A								2		
	現代文B								2	2	
	古典B								2・3	2・3	
	現代の国語	2			2						
	言語文化	2・3			2・3						
	論理国語		2	1・2		2	1・2				
	文学国語		1	2		1	2				
歴史	世界史A								2	2	
	世界史B								3		
	日本史A								2	2	
	日本史B								3		
	地理B								2	2	
	地理総合		2			2					
	地理探究			3			3				
	歴史総合	2		2	2		2				
	日本史探究		3			3					
公民	現代社会							2		2	
	倫理			3			3			2	
	政治・経済			2			2			2	
数学	数学I	1・3・4			1・3・4			3			
	数学II	3・1	1・3・4		3・1	1・3・4			4		
	数学III		1・3	3		1・3	3			6	
	数学A	2	2		2	2		2	2		
	数学B		2			2			2・3	2	
	数学C		2			2					
	数学活用									2	
理科	科学と人間生活	2	2		2	2		2			
	物理基礎	2	2		2	2			2		
	物理		2	4		2	4			5	
	化学基礎		2			2		2		3	
	化学		2	4		2	4			2	
	生物基礎	2	2	2	2	2	2	2	2		
保健体育	生物		2	4		2	4			5	
	地学基礎		2			2			2		
	体育	2	3	2	2	3	2	2	3	2	
芸術	保健	1	1		1	1		1	1		
	音楽I	2		2	2		2	2			
	音楽II									2	
	美術I	2		2	2		2	2			
	美術II									2	2
	書道I	2		2	2		2	2			
外国語	書道II									2	2
	コミュニケーション英語I							3			
	コミュニケーション英語II								4		
	コミュニケーション英語III									4	
	英語表現I							2		2	
	英語表現II								2	2	
	英語会話									2	
	英語コミュニケーションI	3・4			3・4						
	英語コミュニケーションII		2・3・4	2		2・3・4	2				
	英語コミュニケーションIII			3・4			3・4				
家庭情報	論理・表現I	2	2		2	2					
	論理・表現II		2			2					
	論理・表現III			2			2				
家庭情報	家庭基礎	2			2			2			
	情報の科学							2	2		
情報	情報	2									
	情報I	2		1	2		1				

(専門教科・科目及び学校設定教科・科目)

教科	科目	入学年度									備 考	
		令和5年度			令和4年度			令和3年度				
		1	2	3	1	2	3	1	2	3		
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
農 業	農 業 と 環 境			2				2				課題研究は、2・3年次継続履修。 総合実習は、2・3年次継続履修。 食品製造は、2・3年次継続履修。
	課 題 研 究			3	3			3	3			
	総 合 実 習			3	3			3	3			
	農 業 情 報 処 理										2	
	野 菜				2				2			
	草 花			2				2				
	食 品 製 造			2	2			2	2			
	微 生 物 利 用										2	
	造 園 技 術										2	
	農 業 と 情 報				2				2			
地 域 資 源 活 用				3				3				
工 業	工 業 技 術 基 礎			3				3			3	
	課 題 研 究				4				4		3	
	実 習				3				3		3	
	製 図			2				2			2	
	生 産 シ ス テ ム 技 術										2	
	環 境 工 学 基 礎										2	
	電 気 基 礎								3			
	電 力 技 術				2				2		2	
	社 会 基 礎 工 学				2				2		2	
	地 球 環 境 化 学			2				2				
商 業	電 気 回 路			3				3				
	工 業 環 境 技 術										2	
	生 産 技 術				2				2			
	ビ ジ ネ ス 基 礎			2				2				
	課 題 研 究				3				3		3	
	マ ー ケ テ ィ ン グ			3				3			2	
	商 品 開 発										2	
	広 告 と 販 売 促 進										2	
	簿 記			4	2			4	2		3	
	財 務 会 計 Ⅰ										3	
家 庭	原 価 計 算				3				3		2	
	ビ ジ ネ ス 情 報										2	
	情 報 処 理			3				3				
	ビ ジ ネ ス 法 規				2				2			
	ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン				2				2			
	ビ ジ ネ ス マ ネ ジ ム ン ト				2				2			
	観 光 ビ ジ ネ ス				3				3			
	子 ど も の 発 達 と 保 育									2	2	
	生 活 と 福 祉			2・4				2・4		2・3		
	フ ー ド デ ザ イ ン			2	3			2	3		4	
情 報	保 育 基 礎			2	2			2	2			
	住 生 活 デ ザ イ ン			2				2				
	フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 基 礎			2				2				
	保 育 実 践				2				2			
	課 題 研 究				4				4			
	介 護 福 祉 演 習				6				6			
	情 報 メ デ ィ ア										2	
	ア プ リ ケ ー シ ョ ン と プ ロ グ ラ ム										2	
	情 報 デ ザ イ ン				2				2		2	
	福 祉	社 会 福 祉 基 礎								2		
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術									3			
生 活 支 援 技 術											4	
介 護 総 合 演 習											4	
体 育	こ ころ と け ん ぎ の 理 解								2			
	ス ポ ー ツ Ⅱ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
音 楽	ス ポ ー ツ Ⅲ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	ソ ル フェ ー ジ ュ										2	
美 術	鑑 賞 研 究										2	
	器 楽 描 素										2	
英 語	鑑 賞 研 究										2	
	英 語 演 習				3				3		3	
人 文	総 合 英 語 演 習				4				4		4	
	国 語 演 習				3				3		2	
	世 界 史 演 習				3				3		5	
	日 本 史 演 習				3				3		5	
	表 現 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン				2				2			
	数 学 演 習			1	3・5			1	3・5		4	
理 数	総 合 数 学 演 習			2・3	3・5			2・3	3・5		6	
	応 用 数 学				2				2		2	
	微 分 積 分 演 習				3				3			
	数 理 数 学				5				5			
	化 学 演 習				2				2		2	
	生 物 演 習				2				2		2	
	地 学 演 習				2				2		2	
	物 理 演 習				2				2			
産 業	理 科 総 合 演 習				3				3			
	ス ペ シ ャ リ ス ト 基 礎			2								
農 業	Webデザイン&Webプログラミング				2				2			
	農 業 集 子 演 習				2				2			
工 業	地 域 エ ネ ル ギ ー				2				2		2	
	保 健 体 育			2	1			2	1			
探 究	ト ッ プ ア ス リ ー ト 概 論											
	地 域 創 造 と 人 間 生 活	2				2						
総 合	産 業 社 会 と 人 間								2			
	総 合 的 な 探 究 の 時 間	1	3	2	1	3	2		3	3		
小 計	小 計			74~				74~			74~	
	ホ ー ム ル ー ム 活 動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合 計	合 計			77~				77~			77~	
	組 編 成			5				5			4	

# 【資料2】ルーブリック表

## 福島県立たば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック (6 April 2021 Ver.)

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘り、周辺情報や関連情報を収集し理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰して理解する。
	B	英語でコミュニケーションがとれるようになる。	英語でコミュニケーションをとる関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、スピーチ・事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
思考力	C-1	物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目的のある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価し、活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、幅広い視点でスケールを捉え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多面的に考えることができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多面的に考えることができる。
	C-2	創造力 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独創的価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基いた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを生み出そうと行動できる。	目的の課題に対して、これまでに得た知識や技術を関連づけて活用しながら、自分なりのアイデアを実践しようとする行動ができる。	行動する中での出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな独創的価値を創造することができる。
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	D	表現・発信力 どのような場でも聴くことなど、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも臆せず、集団の前で自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	テーマや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考慮し、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えられる。	多様な人々へ、熟慮とストーリーを持って関わりながら、価値を得ることができ、共感を醸成することができる。
	E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人、異年齢等を乗り越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことにより一人で取り組むことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を肩書き、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者との間で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。	分断・対立、文化・国境を越え、社会を委ねる形での行動について、互いに高めあえる関係をつくれる。	分断・対立、文化・国境を越え、社会を委ねる形での行動について、互いに高めあえる関係をつくれる。
マナー・レジメンタリ 自分や組織での取り組みを計画性を伴って進めることができる。	F	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を受けながら作業を実施できる。	全体として必要な作業を洗い出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に処理することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担し、目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	前向き・チャレンジ 自分を意味する存在として考え、自信を持って取り組む、課題解決のために自分の役割を見つけて、全力で取り組む、決断をためらわず実行できる。	自分を意味する存在として考え、自信を持って取り組むことができる。	自分を意味する存在として考え、自信を持って取り組むことができる。	困難にぶつかっても自分自身の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても自分自身の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても自分自身の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるめたたかさを持ち、協調して共に高めようとする。	集団や他者の中で、他者を受け入れ、思いやりの場を創出できる。	集団や他者に対して、思いやりの場を創出できる。	集団や他者に対して、思いやりの場を創出できる。	集団や他者に対して、思いやりの場を創出できる。	考えの違う他者の意見や存在を受け入れ、自分や社会をより良くしていくための重要なものとして受け入れられる。
	I	能動的市民性 社会を支える当事者として意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようとして、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意識と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語るすることができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と理想の差を見つめることができる。	自分の目標に近づき、自分の行動を振り返り、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中で自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大域的に行動できる。	社会の中で自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大域的に行動できる。

協働

自立

## 【資料3】運営指導委員会

令和5年度 WWLコンソーシアム構築支援事業 第1回運営指導委員会記録

1 期日 令和5年11月28日(火) 15:00~16:30 オンライン開催

2 出席者(敬称略)

- (1) 運営指導委員  
田熊美保委員(OECD教育スキル局シニア政策アナリスト)  
鈴木寛委員(東京大学公共政策大学院教授)  
田村学委員(國學院大學教授)【欠席】
- (2) ふたば未来学園中学校・高等学校(校長、副校長、企画研究開発部主任)
- (3) 認定NPO法人カタリバ双葉みらいラボ(拠点長)
- (4) 管理機関(福島県教育庁高校教育課)

3 開会行事

- (1) 主催者挨拶(高校教育課長)
- (2) 事業拠点校校長挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 委員長及び委員長代理選出

4 報告及び協議

(1) 令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の取組について(事業拠点校より)

- ・SGH、グローバル型の8年間を経て、成果の分析、発信をどうすべきかを念頭にスタートした。
- ・早稲田大学と7月に連携協定を締結し、地域の方と一緒に「1F地域塾」を立ち上げた。
- ・探究のゼミ編制をより高度かつ文理融合型に変えていく準備をしてきた。
- ・9月の発表会では、コンテスト部門と対話部門を新たに設けた。
- ・本校生徒と地域の方で、「ごちゃまぜ探究会議」を開催した。
- ・ドイツ研修とニューヨーク研修では、新型コロナの影響でなかなか海外研修に行けなかったが、生徒の学びを止めずに、来日している留学生と研修をする形で実施してきた。昨年ようやく海外に行くことができた。海外に直接行って学んできた生徒が今、一生懸命に生き生きと探究に取り組んでいる姿を見ると、海外で実際に学ぶことは、本当に生徒のエンジンになると実感した。
- ・グローバル型の研究成果発表会では、全国から150名以上が参加し、全国に向けて発信できた。

(鈴木寛委員)

ふたば未来では組織として、探究の指導体制があり、指導力が向上するようなエコシステムができつつあるのは素晴らしい。これをぜひほかの学校に広めていただきたい。またそれを広める中で、自分たちのやっていることをもう一回、自己認識し、さらにより良いものにしていくというきっかけにもなる。

(田熊美保委員)

エコシステムで広がっていくことや「ごちゃまぜ探究会議」は本当に良い。そのノウハウを情報共有していただきたい。また、コロナでも海外旅行の代替案として留学生を巻き込んだところも良い。引き続き国内におけるグローバルという点でWWLでも大切にしてほしい。情報共有において、他校とシェアする際に良い事例集のみをパッケージ化せず、皆さんの苦労も含めた形の方が受け取る側に広まりやすいのでは。

(2) 令和5年度事業実施計画について(事業拠点校より)

- ・目標に関しては、今までのことを継続、進化させていきたい。特に1年目は、環境整備が重要。
- ・探究を軸としたカリキュラム編成やゼミ編制においては、大学と連携してアドバンスプレイスメント(以下、AP)を絡めたカリキュラム開発をしっかりとやっていきたい。今年度は東北大学と試行的に取り組んでいる。次年度以降に実施できるための論点整理が必要。
- ・生徒のウェルビーイングも考えたカリキュラムを検討していきたい。
- ・高校生国際会議のために、プレ会議をやるなど準備を進めたい。

(田熊美保委員)

高大接続が入試でなく、探究で繋がるのが素晴らしい。ただし、APで繋がっている生徒だけではなく、そうではない生徒の受け皿も必要で、多重層になるとなお良い。その生徒の学びの段階が合った上でのAPだと良い。高校生国際会議は、どこまで生徒が主体でやるかを考えると良い。テーマがまだ決まっていなければ、生徒と先生のウェルビーイングを一つ柱にすると良いのでは。

(3) 令和5年度事業実施状況について(管理機関より)

- ・アドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成するために、福島アドバンスト・ラーニング・ネットワーク推進会議、事業拠点校・事業連携校連絡協議会を開催した。
- ・令和5年3月に教育連携協定を締結した東北大学との取組が始まった。「学問論演習」という講座に

において、大学生と高校生が合同履修するという取組を試行的に始めている。条件を満たした生徒にはオープンバッジが発行される。ふたば未来学園高校と福島高校の13名が参加しており、理解度も満足度も高いが、講座の開講時間が夕方であるため、負担感がある生徒がいる。開講時間が課題。

(4) 今年度取り組んでいきたいことと今回の協議題について(事業拠点校より)

- ・事業立ち上げのための環境整備、本事業の成果を図る指標の検討をしたい。
- ・教科学習の質的転換を図り、探究的な学びに繋がるようにしたい。
- ・スクールポリシー検討の際には、生徒と教員が共通認識を図ることが大切である。
- ・教育活動の中で、授業の評価、学習におけるクオリティが低下している部分があるのではないかと、ということがあり、どんなことに集中的に資源を投じていくかという議論も必要。生徒が自分で計画を立て、その学び方を自覚するメタ認知力をいかにつけていくのが非常に重要と考える。

(鈴木寛委員)

メタ認知を獲得することは重要かつ興味深いテーマだ。他の生徒のやっていることをたくさん見る、さらに評価する経験をするとうまい。例えば、生徒がプレゼン、生徒が評価することは一つのアイディア。

(田熊美保委員)

自律した学習者になるためには、スクールポリシーが生徒たちの中で共通言語になっているかが重要。それがカリキュラムになっていく。エストニアは、自治、自律を理念としており、生徒も一緒にスクールポリシービジョンを作っている学校もある。例えば、学校カリキュラムにおいて、金曜日を自分で授業を考える日としている学校もある。どうカリキュラムを評価するのかは、スクールポリシーにあるビジョンの自律した生徒であるか否かという点に関する評価指標と連動している。点(カリキュラム)と点(評価)を結んでデザイン設計をすることが大切。OECDでも各国がどうカリキュラム効果測定をしているのか調査をしている。東北大学とも話をしている。

(事業拠点校副校長)

自律した学びを獲得するために探究活動があると思う。他人のやり方を見て、修正したり試したりして自分で学びのデザインをしていくという主体的な学びになるために探究的な学びがある。生徒が主体的にということに対して、まだ努力が必要。教員の意識改革についてもご指摘をいただきたい。

(鈴木寛委員)

今の日本の生徒に最も足りないのは自由な時間と空間。自律やエージェンシーのためには、総合的な探究の時間ぐらいは何も指示されなくていいのでは。教員も同じで、ちゃんとやらないというのを目標にする。苦痛だと思うが、それに挑戦してみたらどうか。

(田熊美保委員)

福島の皆さんの「ちゃんとする」のが解けた瞬間を見てきた。福島の高校の先生と大阪の中学校の先生が混じっただけでも、福島の先生方がゆるくなられた例がある。また、「ちゃんとする」環境だと、高校生は失敗を恐れて解の定まっていな学びを不安に感じ、ゼロから1を生み出す環境になっていない。WWLの環境整備においては、学びの環境とカリキュラム設定などしっかりやると良い。

(事業拠点校企画研究開発部主任)

鈴木先生のお話は大変励まされる。また、エストニアがどのように学びを作っているのか知りたい。

(田熊美保委員)

先ほど述べたエストニアの学校では、スクールビジョンを生徒と一緒に作るというステップをきちんと踏んだ上で、できている。大阪の中学校でも、そのエストニアの学校に伴走している研究者がアドバイザーに入っており、ゼロから1を創るというのが学校のビジョンの一つになっている。また、エストニアの「見方・考え方」の授業(異なる教科の教師と森を散歩する)を知った日本の中高校生が、教科の先生と農園を自由に散歩することを企画している。「教科の眼鏡」で散歩すると、同じ空間でも、異なる発見をすることができるという取組もある。WWLで教科学習をどうほぐすか、探究とどうつながっていくかを考える。まずは見方・考え方から取りかかる。

(事業拠点校校長)

スクールポリシーは、生徒と共通言語になっているので、理想像をさらに効率よく目指していけるように作っていききたい。互いに評価する観点は非常に大切で、メタ認知力を育成することによって自律した学習者を目指していきたい。生徒に伴走しながら良い教育を提供できるように頑張っていきたい。



タイムライン	7	8	9	10	11自然科学・人間科学	12競技力向上	
~13:55 事前準備 14:00~14:10 開会行事	会場	みらいシアター				選択8教室	選択10教室
	外部講師	—				佐藤理夫教授 (福島大学共生システム理工学類 エネルギーコース)	西嶋尚彦教授 (筑波大学大学院 ※オンライン)
教員	草野	池端	大谷	鈴木敬	駒木根	遠藤太	
①	菊池紀莉 八木香練	阿部女哉 荒川幹 諸橋運 川崎葉子	山形遥 渡部咲希	木村麗華 野口唯花 五十嵐瞳生	猪狩麟 四家遙 古山寿智 齋藤佑磨	影山輝心 中本徹平	当たり前にした い身体を使い方 とトレーニング ジャンプ力向上 メソッド
②	八木香練	川崎葉子	渡部咲希	五十嵐瞳生	古山寿智 齋藤佑磨	中本徹平	
③	佐藤心花	谷聖彩	遠藤詩幸 金澤煌大	中井直歩	林佳瑞	早田凌 岡田一沙	筋トレして競技力 向上
④	石上琴乃	阿部柊	根本陽葵	猪狩佑紀	星野寿々花 山崎こはる	仲田海吾 落合派斗 田端友貴	スピードを上げ て競技力向上
⑤	鷹琉花	阿部一葉	山野刃聖	黒木笑夏	紺野一剣	山岡七海	女性アスリート について
⑥	佐藤麗香	大越佑哉	村岡拓海	鈴木七海	菅波海斗	武山敏治 渡辺元氣	目指せフリー キックマスター
⑦	中島空音	伊藤珠弓	伊藤珠弓	鈴木慶那 橋本明佳	鈴木慶那 橋本明佳	永田和夫	音楽とスポーツ の関連性
⑧			発表数が他チームより少ないため 発表時間が前後する可能性が あります。				

【資料4】生徒探究テーマ一覧 高校3年次（コンテスト部門・対話交流部門）

	コンテスト部門(みらいシアター)	コンテスト部門(協働学習ルーム)
9:00 ～ 9:15	<b>#citrus～広野みかん発信プロジェクト～【中学】</b>	<b>Imagine future energy【中学】</b>
	室井郁 山本あこ 山本樹	堀川蒼太 原百香 橋本諒
	-	-
	私たちがチーム#citrusはマルトさんと協力し広野みかんを使用したスイーツを商品開発しました。私たちが見つけた広野みかんの魅力は、酸味が強く、甘いスイーツの味を引き立てられるところです。私たちの発信の目的は、広野町の人や町外の人にも広野みかんについて知ってもらうことです。最終的には広野みかんを通して広野町についての認知度が高まることをゴールとしています。私たちはこれまでマルトさんとの共同開発の打ち合わせ、試食会、様々な場所へのポスター掲示、広野町長をはじめとした広野町役場の方々に表敬訪問、販売会などを行ってきました。多くの方が広野みかんに興味を持って下さり、活動してよかったですと感じました。	双葉郡が再生可能エネルギー(主に水素発電、太陽光発電、風力発電)の発電地として地形的、環境的な面からみて適していることが分かり、それらを発信することで双葉郡の新たな魅力になると考えた。双葉郡で再エネが行われていることを発信することで原発の悪いイメージをなくすことができ、双葉郡のもとの魅力に気づいてもらって再エネを新たな魅力として知ってもらうことを目的としている。そして多くの人に魅力を知ってもらうことが第一のゴールとしている。今までしてきたことは様々なところに行き魔炉や再エネの話を調べてきた。そして双葉祭の発表で調べてきたことを発表しアンケートを取ったところ少数だが知ってもらうことができた。
	広野みかん 商品開発 スイーツ	再エネ 原発 風評削減
9:15 ～ 9:30	<b>鉄を追え【中学】</b>	<b>ぶどりーむ【中学】</b>
	藤東佑和 眞船新巖	伊藤素弓 作山心彩 土田葵衣
	-	-
	浜通り地方の海岸には砂鉄がとでも多くあり、中世ではたたら製鉄が盛んで日本でもトップクラスだった。地元の人に製鉄の歴史を知ってもらうことが探究の目的。アンケートや聞き込み調査などを通して地域の方々にはあまり地元の歴史に興味を持つ人が少ないことが分かった。私たちは魅力あふれる製鉄の歴史に興味を持たれないまま忘れられることをとめたい。そのためこの探究で調べたことや実験の結果を地域の子供に地域の歴史教育として伝え、地域の活性化につなげることを目標としている。	私たちは中学一年生の時、メンバーひとりひとりでワインブドウについて調べていました。その後、同じ「ワインブドウ」について調べていた私たちが集まりこのメンバーで川内村のワインブドウについて探究していくことになりました。私たちの探究の目標は、震災からの復興を目指して始まったこのワインブドウという特産品の魅力や、それを作る生産者の思いを皆さんに届けていくことです。私たちはそれをより伝わりやすくするため、川内村でとれたワインの搾りかすを使った染め物に思いを乗せて発信しています。今年の八月には学校で染め物の体験会を開き、川内村のワインブドウの魅力や染め物の魅力を肌で感じてもらうことができました。
	地域復興 歴史教育 鉄	ブドウの搾りかす SDGs 染め物
9:30 ～ 9:45	<b>法はブラックでレッドでちょっとグリーン</b>	<b>ウニと生態系</b>
	菅家菜々子	高岡龍助 大越斗輝
	メディア・コミュニケーション探究ゼミ	再生可能エネルギー探究ゼミ
	私は国連や子どもの権利条約が定めている、法律への子どもの意見表明権が日本では普及されていないことに着眼した。主なアクションは学術論文や書籍、新聞から得た情報をもとに、日本と他国の法律と現状を比較した。また地元の弁護士の方や法学部の大学教授へのインタビューをはじめ、マイプロジェクト、県議長との懇談会等に参画した。しかしながら地域との協働という観点では、ほとんど活動していないため反省点である。現段階の考察ではノルウェーのような修復的司法の制度運用とともに、各家庭が法律と触れ合う機会づくりが大切だと考えている。	①ウニが大量発生による磯焼け。 ②ウニやその養殖の研究をしている宮城大学に行った。 ③ウニを駆除する。他は、最近では、増えすぎたウニを一旦陸にあげ、陸生の植物(クローバーやキャベツ、クズなど。たいいていの植物は食べると言われている。)を与え、肥やしてから出荷する方法。実際に僕たちは飼育はできたが肥やすことはできなかった。そこまで時間がなかったことが原因。 ④日本には食べるという策がある。また、法律を変える必要もあると思う。一番簡単なのは漬して殺していくこと。正直、これしか無いと思う。
	法律 子ども 国際交流	ウニ 生態系 磯焼け
9:45 ～ 10:00	<b>よりよいメンタルヘルスケアを</b>	<b>アートで障がいという枠を無くすために</b>
	辻浦羽彩	三瓶竜也
	健康と福祉探究ゼミ	メディア・コミュニケーション探究ゼミ
	①職場、学校などの環境が原因で心が病む人が増加している。環境が悪いだけで心が病んで人生が台無しになるなんてもったいない。ストレス発散に着眼し、どうしたらストレス発散ができるのか、みんながストレス発散できる環境を作るか、などを考えている。 ②ふたば未来の高校生と教職員約40名にストレスチェックアンケートを実施。ふたば未来の人間は多大なストレスを抱えていることが分かった。 ③ストレス発散のためのお菓子作りをする会を開いた。 ④世界幸福度ランキングで、日本は先進国にも関わらず47位と非常に低い結果だった。日本人はストレスを溜めていて日常生活で幸福を感じにくいのではないかと考えている。	障がいという言葉を忘れずに理解してもらう為にアートを通じて理解を深めてより良い社会を目指していきたい。 調査アクションは自分が通っているi-stepという施設でパソコンを使ってデジタルのアートを描いて頂いて、自分自身も描いて見ました。それをホームページに載せる直前まで進みました。今後はアートを利用して外部の人に伝えるようにどの方法があるか模索しております。僕が考えた考察は、日本は世界に比べて障がい者の受け入れがまだ厳しいと考えていて政府は受け入れをしようというために政策を提示していますが、それでもまだ理解が世界に追いついていないので、少しでも受け入れてもらいたくて探究を通していきたくと思います。
	ストレス発散 メンタルヘルス ストレス	障がい アート 理解発信

【資料4】生徒探究テーマ一覧 高校3年次（コンテスト部門・対話交流部門）

10:15 ～ 10:30	<p><b>海洋放出について考える —反対運動を始点に—</b></p> <p>佐藤志保</p> <p>原子力防災探究ゼミ</p> <p>①海洋放出の問題を理解するためにはどうしたらよいか ②2F、浪江原発建設時に起こった反対運動についての本を読んだ。海洋放出に対する住民の理解度をテレビ局や新聞社の世論調査をもとにまとめた。いわきと平潟の漁師に海洋放出についての意見を聞いた。 ③本校の生徒に向けて処理水と海洋放出について考えてもらうイベントを実施した。 ④処理水について正確な情報が国民に浸透していないことが反対の主な理由になっている。漁業者側は風評被害が起こる可能性がある限り賛成することはできない。反対派の意見に重点を置いたからこそ海洋放出が一概に正しいといえない理由が分かった。</p> <p>海洋放出 反対運動 国民の問題意識</p>	<p><b>野球の楽しさを伝えよう プロジェクト</b></p> <p>尾島健太 佐藤一之成</p> <p>スポーツと健康探究ゼミ</p> <p>長年に渡り、日本人と共に様々な記憶やドラマを生み出してきた野球。伊良部、衣笠、清原、ローズといった数々の有力選手を生み出してきた日本だが近年その日本野球人口減少が著しく激しいものとなっている。その要因としては子供達の野球離れ、tvの野球放映の減少等、様々な問題が掲げられる。つまり、日本人が野球という娯楽に触れる機会が無くなっていると分析した我々は、地域の小学生に遊び感覚で野球というスポーツの楽しさというものに触れさせる事にした。</p> <p>野球人 交友 魅力発信</p>
	<p><b>海を学ぼう!!!</b></p> <p>神山美咲</p> <p>再生可能エネルギー探究ゼミ</p> <p>①処理水、防災意識の希薄化、海水浴場の封鎖等に伴う、海に触れる機会の減少 ② 請戸小学校等の施設見学 ③ 寮の指導員や海に関わる職業の方々へのインタビュー・インターネット調査 ④ 相馬双葉漁協請戸と協力し、本校高校生・周辺小学校の生徒を対象に、漁港の仕事や海について学ぶイベントを開催した。 ⑤ 処理水や環境問題などは難しいイメージがあり、自主的に学ぼうという人はあまりおらず発信することも難しい。だが“楽しい”を軸に据えた活動は企画する側も参加する側もハードルが低く、どの年代の人でも気軽に行動を起こせる。このような活動が広まれば環境問題や処理水等の大きな課題の解決につながるのではないかと考えた。</p> <p>海 漁業 交流</p>	<p><b>私と檜葉とさつまいも</b></p> <p>佐藤愛心</p> <p>アグリ・ビジネス探究ゼミ</p> <p>私が解決したい課題は檜葉町の特産品が少ない事と風評被害についてです。アクションはまず檜葉町ゆず研究会会長の松本広行さんにインタビューをしました。その際にはゆずの栽培や有機栽培について教えていただきました。次に特産品を作るという課題を解決するために地元のさつまいもを使ったお菓子を一つ作ってPRしたいと考えました。その時に担当の先生と話をしてその中で、地元企業の「復興プロジェクト」を知り参加することになりました。そこで、さつまいもを使ったパンの制作を考えました。</p> <p>檜葉町 食品開発 特産品</p>
	<p><b>大熊町の風評被害の 払拭を目指して</b></p> <p>宍戸涼果</p> <p>アグリ・ビジネス探究ゼミ</p> <p>①大熊町の風評被害払拭を目指して町に人が戻ってきてほしい。福島県の農作物は安全だと伝えたい。 ②ネットで検索をした。どうやって復興のお手伝いをすればよいか考えた。 ③ネクスフォームおおくまに協力依頼、活動の内容を説明、いちごを譲ってもらった、商品製造の依頼(いちごのマドレーヌとフィナンシェ)、標葉祭りに出店、アンケートの実施、設問が少なかった・記述式の質問がなかった→2回目のイベント参加を決意、大熊産キウイのマドレーヌを作成、おおくま学園祭2023に出店、アンケートを実施、集計した結果を元に考察、NHK“被災地の声”に出演 ④特産品を使った商品で地域のイメージを良くしていきたい。</p> <p>風評被害 復興 魅力発信</p>	<p><b>Caféふう売上あげあげプロジェクト ～人と人が繋がる居場所～</b></p> <p>遠藤果穂</p> <p>メディア・コミュニケーション探究ゼミ</p> <p>Caféふうが抱えていた課題は、①地域の人の来客が少なく、赤字なこと②せっかく来ても交流の場が生まれにくい、この二点だ。①の課題に対しては、顧客の層ごとに新規獲得とリピーター獲得に目的を分けて、先生が集まる場所に毎日お知らせを書いたり、地域のお祭りなどに来店したり、SNSを使ったりするなどの販売促進活動を実施した。②の課題に対しては、地域の大人と高校生の交流の場を作るために、対話を目的としたイベントを開催した。地域の大人と高校生が交流する場所を作ることによって、高校生は人間関係を広げ自信をつけ、地域の大人は地域復興の仲間が増えるなど、相互に良い効果をもたらすと考えた。</p> <p>地域交流 居場所 対話</p>

**【資料4】生徒探究テーマ一覧 高校3年次（コンテスト部門・対話交流部門）**

	対話交流部門(選択9)	対話交流部門(選択10)	対話交流部門(多目的3)	
9:10 ～ 9:30	<b>ゆるくまじめに政治を学ぶ会</b>	<b>人がいなくても生きる集落【中学】</b>	<b>そうだ富岡、行くべ【中学】</b>	9:10 ～ 9:30
	鴨川絃音	大森春花 志賀陽向 渋谷歩性	生田愛華羽 藁谷優花 上西さくら 渡邊咲斗	
	メディア・コミュニケーション探究ゼミ	-	-	
	①若者の政治への関心、知識が足りない！ ②アンケート調査 ③政治家・かわいいをテーマにプチ講演 ④政治に対して新しい見方を持つことで、政治に関する正しい知識を身につける・積極的に選挙に参加するようになるのではないか？さらに、ネット上の政治家に対する批判的な書き込みも、誹謗中傷問題に関連付けられるかもしれない。	私達は広野町の山奥にある箒平という集落について探究しています。なぜこの場所を探究しているのかというと誰も調べていなくて、綺麗で、珍しい場所だからです。この箒平集落はほとんど人が住んでいない過疎集落です。ネットの情報もほほい状態に始めたこの探究ですが、何度か箒平に行き、箒平の魅力を知ることが出来ました。また、住民の方々の思いも知ることが出来ました。私達が箒平を探究して見つけた新たな魅力は「人がいなくても集落が成り立っている」ということです。この魅力を元に箒平のカードを作ったり、座談会を行いました。私達が行ってきたことや箒平の新しい魅力などをスライド、対話を通してお伝えします。	私たちの班が目をつけたのは震災前後の富岡町です。フィールドワークに行った際、「若い人が少ない」や「物の揃いが悪い」ということを聞き、自分たちに何かできないのかと思いました。さらに話を聞くと人が少ないということは事業が来るメリットがないということも聞きました。そこで私たちは富岡町の事を知っているが富岡町に興味がない人達は富岡町を知らないのではと思いました。そこで少しでも興味を持って貰い富岡町に来るきっかけを作りたいと思い、私たちの班は富岡町の震災や原発のことについて説明、掲示している施設をツアーで回っているような動画を作成して投稿をすることによって不特定多数に見てもらえると考えました。	
	政治 若者 推し活	集落 過疎化 景観保持	動画 ツアー 魅力発信	
9:30 ～ 9:50	<b>馬と共に生きる【中学】</b>	<b>愛とはなにか</b>	<b>ゲームで伝える富岡町</b>	9:30 ～ 9:50
	箱崎真香	土屋樹 渡邊縫 草野理香子	大津怜奈	
	-	健康と福祉探究ゼミ	メディア・コミュニケーション探究ゼミ	
	皆様は引退馬をご存じでしょうか。今、引退馬は注目を集めつつあります。なぜならとある大きな問題を抱えているからです。私の探求はこの問題を完全に解決したいというわけではありません。これから引退馬はどうなるべきか、そもそも問題視するべきか。そして私たちに何ができるかを私の発表を通して考えていただけたらと思います。今回のプレゼンテーションではそもそも「引退馬って何？」「競馬って何？」という馬に関する知識がない方も分かりやすくご紹介いたします。	①双葉郡に結婚式場がなく地元で結婚式を挙げたいという人達が結婚式を上げられない。 愛について知りたい！愛されたい！ ②インタビュー調べ学習 ③学校の人や校外の人に愛ってなんだと思いますかと聞きまわった！ 調べ学習 ・対話イベント ・地域イベント参加 ④結婚する人が増える→子供たくさん→少子高齢化防止	若い世代の人達に分かりやすく富岡町を伝えるにはどうすれば良いか。という課題の元探究を行っています。自分の町について話しても入る場があるけれど訪れる若い世代が少ないこと。震災前と比べ人口は増えつつあるが未だ戻っていない人が多数である事。以上の事実を踏まえ、実際に現地に赴き、建造物の使用許可を頂きつつゲーム制作を行っています。ゲーム制作に関し、実際地方創生RPGを制作している地方団体も存在しているため、聖地巡りや町を楽しく学ぶことで過疎化や少子高齢化の対策になるのではないかと考えています。	
	引退馬 殺処分 安楽死	少子高齢化 LGBT 結婚する人少ない	地域発信 ゲーム イラスト	
	<b>#周囲にどのように関心を持ってもらうか</b>	<b>#ウェルビーイング・豊かさ</b>	<b>3.11は僕らに何を伝えたいのか？</b>	9:50 ～ 10:10
	<b>2つの発表を踏まえての対話(30分)</b> 9:50～10:20	<b>2つの発表を踏まえての対話(30分)</b> 9:50～10:20	藤原知也	
	<b>休憩</b> 10:20～10:30	<b>休憩</b> 10:20～10:30	原子力防災探究ゼミ	
			震災が分からない人達が増えている中その記憶を風化させないために、、、 原子力発電に関する知識を本から学んだ。富岡アークイブミュージアムで館長さんからお話を聞いた。そこから得た知識をまとめて分かりやすく中学生に伝えてより深い議論をしてもらうためにはどうすれば良いのかということを常に考えていた。 中学生に授業をすることで記憶が風化されないように残していく。中学生の頃から問題提起について深く知り知恵をつけることでそこに自分の意見が生まれその意見を交換することで地域の課題解決などに繋がるのではないかと？人でも考えることも大切なことであるが、人と対話をするコミュニケーション能力が必要になると考える。	
			震災 教育 模擬授業	

【資料4】生徒探究テーマ一覧 高校3年次（コンテスト部門・対話交流部門）

10:30 ～ 10:50	<p><b>パラスポーツの認知度を上げるためには</b></p> <p>緑川歩幹</p> <p>健康と福祉探究ゼミ</p> <p>パラスポーツの認知度が低い、障がい者に対する差別や偏見を感じる。自分自身がパラスポーツについて知らなければいけないのでまずは調べ学習から始めた。県内でパラスポーツを取り上げているイベントはないか調べた。県内でのイベントはほとんど終わってしまったため県内にパラスポーツ協会がないかを調べた。福島県内に協会の本部があることが分かったが、練習会で田村市の陸上競技場を使っていることが分かり二年生の夏休み中にアポを取り実際にパラスポーツの練習会に参加した。学校で同じゼミのことポツチャを行った。障がい者のことを同じ人間としてみていないから興味を持たないのではないのだろうか。</p>	<p><b>福島と世界の架け橋プロジェクト</b></p> <p>小林明日美</p> <p>メディア・コミュニケーション探究ゼミ</p> <p>①対話と交流の場が少ない ②語り部イベントの参加、部活を通して他県の高校生と交流など ③イベントの開催、ニューヨーク研修への参加など ④ニューヨーク研修に参加して福島と世界の共通点を見つけることができた。</p>	<p><b>休憩</b> 10:10～10:20</p> <p>#震災後の風化とまちづくり@富岡</p>
	<p>パラスポーツ 車いす</p>	<p>国際交流 語り部 コミュニケーション</p>	<p><b>3つの発表を踏まえての対話 (50分)</b> 10:20～11:10</p>
	<p><b>理解されにくい人とどう関わるべきか</b></p> <p>齋藤 菖</p> <p>メディア・コミュニケーション探究ゼミ</p> <p>①障がい者差別 ②本やインターネットで障がいについて調べた。学校の生徒職員、地域の学校やデイサービスを通してアンケート実施。 ③まだできていない。 ④【最初のアンケート】障がい者と関わることがなかった人は、関わったことがある人より2倍、障がい者についてマイナスな印象を持っている。障がい者と関わることがない人→「接し方が分からない」「関わることがあれば関わる」→日常的に関わる場を作れば良いのでは(学校とか) 【次のアンケート】子供(ハンデ持ち)が学校でうまくやっていると心配、インクルーシブ教育を望む等の意見→インクルーシブ教育について調べる。</p>	<p><b>ハロートーク！ ～なぜ私たちは英語のコミュニケーション能力が他国より劣っているのか～</b></p> <p>菅田風之</p> <p>メディア・コミュニケーション探究ゼミ</p> <p>私の探究テーマは、「なぜ日本人は他国より英語を使ったコミュニケーション能力が劣っているか」というテーマです。活動した中で出てきた仮説として、単語やジェスチャーだけでコミュニケーションがとれるのではないかと。NY研修のワークショップで気づいたことは、自分の意見が言えることが重要だということです。また、相手に英語ができないと見せたくなく、完璧を目指す自分がいました。帰国後、失敗してもいい環境で簡単なディベートを英語で話そうというイベントを学校で開きました。10数人ほどが来て、結果的に自由に意見を出すことができ英語を間違えても恥ずかしくないという感想が出ました。</p>	
<p>障がい児 インクルーシブ教育 学校</p>	<p>英語 コミュニケーション グローバル</p>		
10:50 ～ 11:10	<p>#インクルーシブ・障がい</p> <p><b>2つの発表を踏まえての対話 (30分)</b> 11:10～11:40</p>	<p>#国際交流</p> <p><b>2つの発表を踏まえての対話 (30分)</b> 11:10～11:40</p>	

各プロジェクトの概要には、  
 ①解決したい課題  
 ②解決に向けた調査アクション  
 ③課題解決のためのアクション  
 ④全国や世界の課題と照らし合わせた考察  
 +プロジェクトに関係するキーワードが最大3つ記載されています。

令和5年度指定  
WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）  
コンソーシアム構築支援事業  
研究開発実施報告書  
第1年次

令和6年3月

編集・発行 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校  
校長名 郡司 完  
住所 〒979-0408  
福島県双葉郡広野町中央台1丁目6番地3  
電話番号 0240-23-6825  
FAX番号 0240-23-6828

印刷・製本 八幡印刷株式会社  
住所 〒970-8026  
福島県いわき市平字田町82-13  
電話番号 0246-23-1471  
FAX番号 0246-23-1473

